

活動状況報告（3月）

学生留学コース 5期生 幡谷 省悟

私は11月からウィスコンシン大学マディソン校での研究を本格的に開始しました。引き続き植物の窒素代謝の解明を目的とした研究を行っています。1月までの実験で、解析に用いる酵素の合成及び精製がほとんど完了したため、2月からはモデル植物であるシロイヌナズナと大腸菌のアミノ基転移酵素（合計44種）を対象に網羅的な酵素機能解析を始めました。11、12月に学んだ手法を用いたこの解析は、独立して行えるようになりました。3月に入ってから、5種類のアミノ酸をそれぞれ基質として実験を進め、結果を得ることができました。

また、今月もこれまでと同様に、Maeda教授、Koper博士とのミーティング、ウィスコンシン大学マディソン校の研究室が行っている植物学に関するセミナーに毎週参加しました。3月7日には、Maeda研究室のミーティングで自身の研究についてプレゼンテーションを行いました。発表、質疑応答ともに緊張しましたが、無事終わり、Koper博士が優しく声をかけてくれてとても嬉しかったです。もっと研究、英語を頑張ろうと思えました。

3月は最後の月ということで、環境に慣れたこともあり、特に集中して研究に取り組むことができたと思います。英語についてはまだ時間が必要ですが、留学で学びたかった実験技術・知識の習得という点では、充実した留学生活ができました。帰国前最後の週には、研究室の人たちからプレゼントと色紙をいただきました。5ヶ月間という短い期間でしたが、とても良い経験、思い出になりました。今回の経験を活かして、北海道大学に戻ってからの研究をさらに発展させられるように努めます。また、Maeda研究室との共同研究も続くため、またウィスコンシン大学マディソン校に行く機会があったときにもっとスムーズにコミュニケーションが取れるように、英語力も鍛えていきたいと考えています。

実験最終日に撮影したKoper博士との写真を添付します（目を瞑っている写真しかありませんでした、すみません）。

この度は、令和4年度みらチャレ生としてご支援をいただき留学することができました。このような素晴らしい経験ができる機会を与えてくださったことに感謝いたします。ありがとうございました。

